

## は し が き

県立教育研究所では、さきに本県高校進学学力検査の5年間の結果を分析して、研究紀要第24集「学力と学習指導」9分冊としてまとめ各位の御批判を仰いだのであるが、とくに英語科においては、今後の課題として **structure** に関する研究を深めることが急務であることを指摘しておいた。「中学校における英語学力調査の分析と学習指導」では、そうした課題解決の方途を推進する意図をもつと同時に、直接的には前の紀要で明らかになし得なかった誤答傾向やそのような誤答をする理由などについて究明し、あわせて **structure** の構想を明らかにしたものである。このため文部省全国学力調査の本県の結果を資料として誤答傾向の分析を行ない、相当客観性をもつ誤答傾向を知るとともにさらにその一部の問題について、三つの中学校の生徒を対象として追試的研究調査を実施することによって、誤答の原因を追求し、学習指導上いくつかの指標を解明することができた。この研究の成果は中学校の英語科学習指導に力強い指針を与え、高等学校にとっても参考になるものと思う。

また、「勤労青年の生活意識」に関する研究は、全国教育研究所連盟の勤労青年に関する共同研究の一環として実施したもので、本県における11市町村から抽出された19歳勤労青年534名の質問紙による意識調査を、通勤青年、住込み青年、農業青年の各生活類型ごとにまとめ、その生活実態と生活意識を全体的、構造的にはあくしよとしたものである。とくに勤労青年が働くこと（労働）と学ぶこと（学習）を、全生活領域や意識の中でどのように位置づけているかという点に焦点を合わせ、生活意識を構造的にはあくするようにつとめるとともに、真の勤労青少年教育の問題解決に役立つ資料を得ようとしたものである。

次に、最近青少年の社会問題が大きくとりあげられているが、その社会問題にかくれたより大きい根本的な多くの問題がある。その一つは一般にノイローゼという言葉で知られている現象で、大人や青少年だけの問題でなく、乳幼児や児童生徒にもしばしば現われている。本年から開始した当教育研究所の教育相談にもこうした症状の相談者が多くみられ、親や教師がそうした症状を理解

せず、気づかずにいたために、早期に治療できるものが、ずるずると悪化してきた例がかなりある。「子どもの神経症について」は、現場の教師や教育関係者、あるいは父兄のために、子どもの神経症の一般的な概要及び発達段階に即した神経症の傾向や特徴、ならびに治療の重要性について記述し、おおかたの参考に資するものである。

おわりに、「中学校における英語学力調査の分析と学習指導」ならびに「勤労青年の生活意識」の研究調査に御協力くださった関係各位に対し、深く謝意を表するものである。

昭和 36 年 3 月 30 日

新潟県立教育研究所長 柴 田 美 穂